No Support Yes Party

飯田 理人

国際協力の意義とは、単に開発途上国を支援して豊かな暮らしを届けるだけでなく、国籍の違う人たちが互いに信頼関係を築くことにあると考える。

今回ジャカルタを訪れると、日本がインドネシアを占領していたという歴史があるにもかかわらず、親日的な人が多いという印象を受けた。その背景には、インドネシアの発展に貢献してきた日本人がインドネシア人との「繋がり」を大切にしてきたからだと感じた。ジャカルタでは現在、地下鉄の延伸工事が進められている。工事には日本の清水建設が協力していて、清水建設の技術者と約 1000 人の現地の方々で工事を進めていた。現場の指揮をとっている多川さんは、現地の作業員との仕事に対する意識の差に戸惑うこともあったという。それでも、現地の作業員と話し合い、安全対策や資材の整理整頓など、工事の基本的な事から理解してもらうことに尽力していた。このようにギャップを蔑ろにせず、互いに正面から向き合い、歩み寄る姿勢が大切だと学んだ。

今までの自分は、国際協力は、「支援をする」と「支援を受ける」という一方的な関係だと思っていた。しかし、最も大切なことは、お互いを信頼して手を組みあうこと。たとえ互いの意見が食い違ってもそうだと。この関係あって途上国への支援が成り立つことを彼らが教えてくれた。将来的には、国際的に活躍できるビジネスを生み出したいと考えている。そのためにも、今回学んだ「信頼を土台とした関係性」を誰とでも築けるような人間を目指していきたい。